

シリーズ 第10回

白鳥の歌

星になった子たち

文・写真 岸谷 英雄

診療所だより

第四一七号 (2月号)

発行 医) 宏友会
上田診療所
酒田市上野曾根
字上中割73番地
TEL.0234-27-3306
責任者 矢島恭一

今回は最上川で力尽きてしまった子たちのお話です。白鳥さんの中には厳しい冬を越せずここで亡くなってしまう子もいます。暴風雪に煽られて電線や建物に接触して落下し怪我をして亡くなったりします。また、ある調査で越冬してくる白鳥さんたちの死因の多くが実は「餓死」という報告を読んだことがあります。



昨年の冬は、度重なる寒波で、白鳥さんたちは一面雪に覆われた田んぼで、餌を見つけられず、来る日も来る日も真つ白な雪原を彷徨い歩き、たくさんの子たちが田んぼや最上川の川辺で亡くなっていました。昨年度は山形県内で鳥インフルエンザは報告されていませんので、ほとんどが餓死したのだと思います。

そんな厳しい冬もようやく過ぎようとした頃、いつも土手の上に上がってくるようになった一羽の白鳥さんがいました。その子は足に怪我をしていて、片足をひきずりながら一生懸命土手の上で食べ物を探していました。

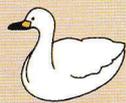
た。陸にあがることは四つ足動物に襲われる危険があります。この子は足が不自由で飛べないので、やむなく陸に上がっていたのだと思います。でも日に日に弱って、ゆっくりとしか動けなくなっていました。なんとか怪我がよくなって、安全な川まで戻れることを祈っていたのですが、まもなく、四つ足の動物に襲われたのでしよう、無残な姿で亡くなっていました。野生に生きる厳しい現実、僕はここで亡くなった子たちは魂だけになって、他のお仲間より一足先にシベリアに帰ったのだと思うようにしています。写真の一枚目は、見渡す限りの雪原となった田んぼを呆然と見つめる白鳥さんたち、二枚目は土手の上で雑草を食べようとしていた白鳥さんです。(この写真を撮った翌日に、この子は星になってしまいました)

このコーナーに

対する感想や

応援メッセージを

お待ちしております。



(編集部)

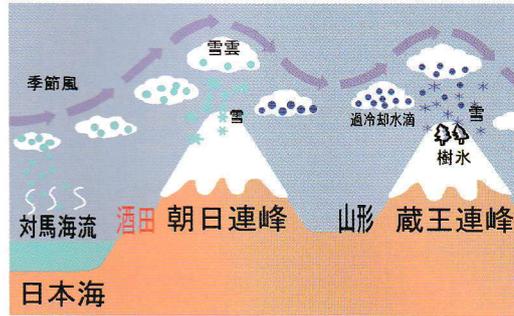


シリーズ「ふるさと」

その169 蔵王の樹氷

仲間と蔵王にスキーに行つた時、樹氷の凄さに圧倒された。その時「樹氷のモンスターは、庄内の雪の余りもの」で「2軍の雪だ」という話が出た。確かに雪雲の流れを見ると、朝日連峰や出羽山地に降る雪は1軍で、蔵王に降る雪は2軍とも言える。

冬の日本海は対馬海流のため暖かく、風呂場の湯気のように水蒸気をため込んで雪雲になる。この雪雲はやがて季節風に乗って朝日連峰に流れ上昇気流となる。上昇気流で温度は著しく下がり（断熱膨張）、含まれた蒸気が煙などの塵（凝結核）のまわりに凍り付いて雪雲をつくる。多量の雪となつて朝日連峰に降り積もるのが1軍と言われる雪である。



朝日連峰で残った雪雲は山形市を通過して蔵王連峰に流れ込み上昇気流となる。上昇した雪雲には雪の核になる塵（凝結核）が少ないために雪はできず、蒸気は0℃以下でも凍らない過冷却水滴になる。この過冷却水滴が、北西からの強い風でアオモリトドマツの葉に接触して樹氷をつくる。出羽山地で雪を降らせた残りの雪が蔵王の雪となるため「2軍の雪」といえる。樹氷は東北地方でも蔵王山や八甲田山など限られた山で見られ、微妙な気候のバランスにより「エビのしっぽ・樹氷」はできていない。

（庄内 平也）

12月29日 納めの会



部署毎に一年の振り返りを発表

ハズレ無し！抽選会も開催



先生、特別賞です！

★ホップト三ヨニ★

新人職員の紹介～うららより異動～



事務 高橋麻里

長い飛行からブーメランの如く心も体もでっかくなって舞い戻って参りました。向日葵畑のような空気を受付から届けられたらと思います。宜しくお願いします。

産休・育休に入ります



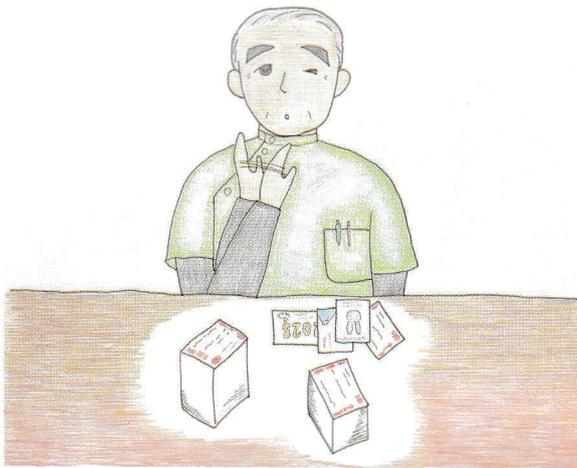
事務 齋藤梢

2月は年賀状について

矢島 恭一

このコラム2月号は、ここ何年か年賀状について書いてきました。今年も後半に書きますが、その前に今私が一番ハマっている放送、いや本について紹介させて下さい。金曜日の午後9時5分からNHKラジオ第1（R1）で始まる高橋源一郎の飛ぶ教室です。この人がどんな人かはさておき、この番組は、3部構成になっており、最初に3分程度のオープニング・エッセイがあり、「それでは夜開く学校、「飛ぶ教室」を始めましょう。」で1時間目がスタート。1時間目は、たいてい高橋さんが選んだ1冊の本紹介です。ほとんど私の知らない本です。2時間目は、ゲストとの対談で、ここには著名人が出演します。打ち合わせなしでスタートするため最後は尻切れトンボになることも多いです。この高橋さんの番組は、コロナ禍が始まった2020年にスタート、オープニング・エッセイはきちんと原稿が残っていました。それを岩波書店が、新書として出版したので。高橋さんは、1951年生まれ、私より4年若く、波瀾万丈の人生を送り、大学教授まで勤め上げたあと現在は作家と紹介しています。大変な読書家であると同時に、著作も多く、私は「飛ぶ教室」を手にする前に「ぼくらの戦争なんだけ」（朝日新書）を読み、彼の文体に引き込ま

れるようになりました。今年の正月は、初めから4日間の寝正月を決めていましたので、来た年賀状はろくに読まず、横になつて様々なラジオ番組を聴いていました。（テレビの映像は疲れるので極力排除して）1月2日夜には、「飛ぶ教室」で特別番組が組まれました。ゲストは、社会学者の上野千鶴子さん。フェミニズムの話がされました。高橋さんは、やや押し気味だったでしょうか。上野さんには、酒田に2度講演にお出でいただきましたが、その時は介護の話で良かったと思いまし



では年賀状に戻ります。今年、年賀葉書を売る側の郵便局にも変化がありました。まず発売枚数を減らした。次に評判の悪かった局員に対する販売ノルマを撤廃

したことです。私の所属する酒田フィルハーモニーにも、二人の関係者がおり、毎年両方から、いい案配に調整して購入していましたが、今年、地元郵便局でということになり、上田郵便局、本橋郵便局から購入させていただきました。次に原稿ですが、昨年末まで忙しかったのと体調もいまい中で、作成するのに熱心ではありませんでした。ところが妻の方が、昨年末に早く原稿をくれたので、秘書さんを介して猛スピードで完成してもらい、12月31日に投函しました。

本局に持って行ったのですが、ここでも拍子抜け。数年前なら車の行列が出来ているはずなのに閑散としており、一人の高齢者の方が寄つてきて鞆に収納してくれました。「随分出しますね」のコメントつきで。

こんな状況を見ると本当に将来年賀状を出す人、企業はいなくなるのかもしれない。年々「喪中につきという葉書」をもらう人が増えてきましたし、「今年を最後に年始のご挨拶を卒業させて下さい。」という葉書も昨年より増えました。

私は小学生の頃から年賀状を書き始め、一度出した人には「まだ生きてるよ」と知らせたくて毎年出してききましたが、ピーク時より百人は少なくなつたでしょうか。いつ出す意義を感じなくなつて出さなくなるのか時間の問題かもしれないと寝ながら考えた正月でした。

子どもたちの さくひん

北平田保育園



「おばけのあめあがり」
かつためいさん



「さるがかきをひとりじめしているところ」
さとうはるとさん

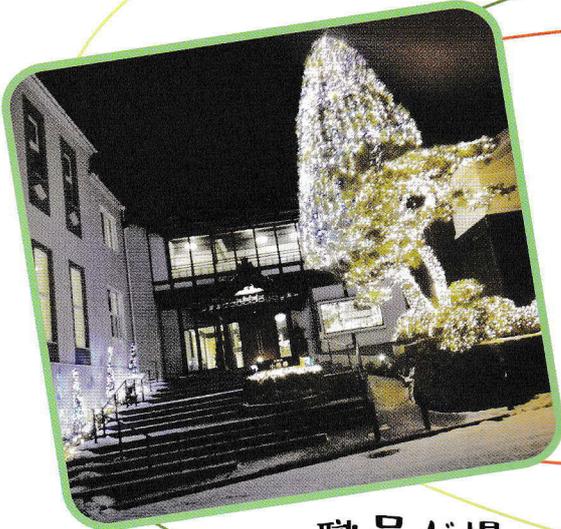
▶「日和山小幡楼」2/28までライトアップ
きらめく空間に心が弾みます♪

▶診療所の2階からダブルレインボー
幸運のサインが✧

vestagram



介護支援専門員
淵田 琴



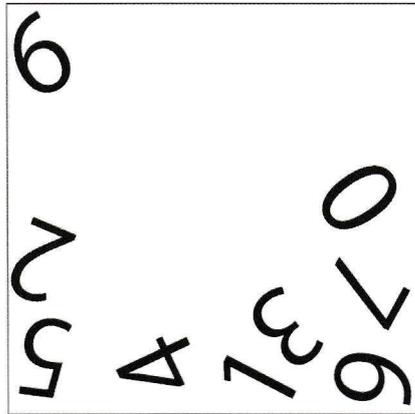
職員が撮ったお気に入りの紹介します★



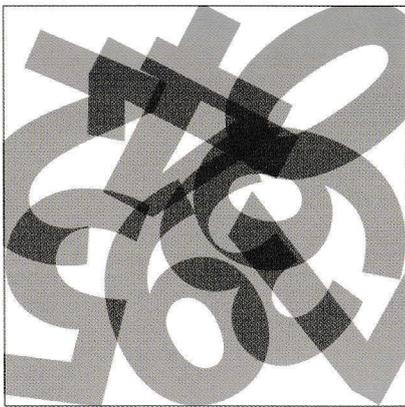
アタマの体操

☆□の中に0〜9の数字がありますが、
足りない数字が一つあります。
何の数字でしょうか？

①



②



1月号の答え

- ①お年玉
- ②鏡餅 でした！



ほほがえみし



施設からようやく家に帰ったKさん。自分の年を「百になる」と正しく答えた直後に「まだ入院したなよ」と。思わず「あれ？」となりながらもかわいらしいKさんは皆の人気者でした。お家でゆっくりできてよかったですね。
(一美)

お知らせ

***新型コロナウイルス検査**(抗原検査・遺伝子検査)できます。検査をご希望の方はスタッフまでお声がけください。予約は電話にて可能です。

***感染症の拡大予防のため、来所される際はマスクの着用をお願い致します。**

編集後記

大雪が降ると、私たちもうたえてしまいますが、白鳥さん達にとっては食料が確保出来なくなり致命的。春まであと少し、無事に乗り切つてシベリアへ帰れますように。
(阿部)